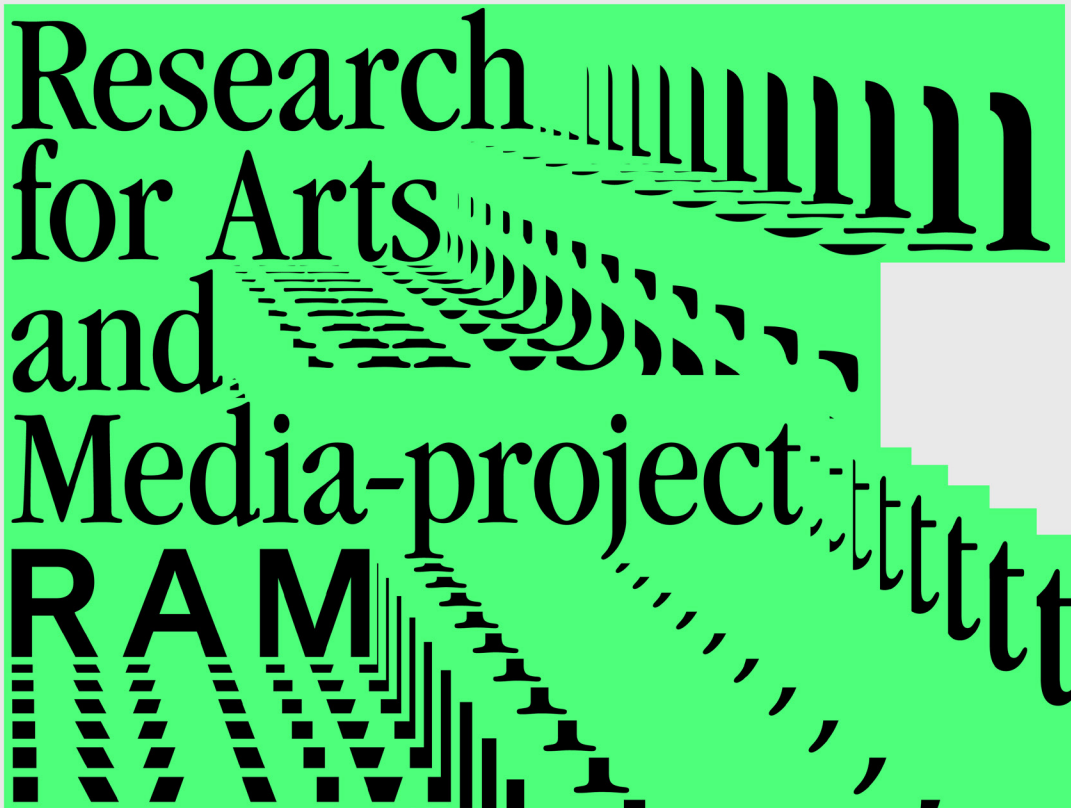


RAM Association
Graduate School of Film and New Media,
Tokyo University of the Arts
東京藝術大学大学院映像研究科

PRESS RELEASE | 東京藝術大学大学院映像研究科 | 2020年6月19日

RAM Associationが、2020年度研修生を募集
募集期間は6月19日［金］－30日［火］

東京藝術大学大学院映像研究科では、ノンディグリープログラムとして「メディアプロジェクトを構想する映像ドキュメンタリスト育成事業」（通称、RAM Association: Research for Arts and Media-project）を実施します。３年目となる2020年度は、自らの芸術表現をより具体的に展開し、活動の幅を広げたい方々を研修生として募集します。

プロデューサーは、桂英史（メディア研究・図書館情報学／東京藝術大学大学院映像研究科教授）、高山明（演出家／東京藝術大学大学院映像研究科教授）、シニアフェローとして今福龍太（文化人類学者・批評家／東京藝術大学大学院映像研究科特任教授）。ディレクターは、和田信太郎（メディアディレクター／東京藝術大学大学院映像研究科助教）。フェローとして、青柳菜摘（アーティスト）、飯岡幸子（映像作家）、カニエ・ナハ（詩人）、玄宇民（映像作家）、田中沙季（Port都市リサーチセンター）、Jang-Chi（アーティスト・コレクティヴ オル太）、潘逸舟（美術家）らが参加し、プロジェクトベースのシリーズ企画を開催します。

研修生は「ポストドキュメンタリー」をテーマに、都市や社会の中で問いを見出し、自らのプロジェクトを映像表現やアートプロジェクトとして立ち上げて実践をしていきます。研修期間は、2020年7月から2021年3月末まで。

募集期間は、2020年6月19日(金)から6月30日(火)。対象は、同時代の表現行為を実践的に問い直そうとするアーティスト、演出家、研究者、エンジニア、プロデューサー、編集者、プロジェクトマネージャーなど。

広報についてのお問い合わせ

geidairam@gmail.com（担当｜西本健吾・澤本望）

開催概要

ポストドキュメンタリー、その芸術実践を目指して

東京藝術大学大学院映像研究科では、ノンディグリープログラムとして「メディアプロジェクトを構想する映像ドキュメンタリスト育成事業」（通称、RAM Association: Research for Arts and Media-project）を実施します。３年目となる2020年度は、自らの芸術表現をより具体的に展開し、活動の幅を広げたい方々を研修生として募集します。

RAM Associationは、芸術の社会的な役割が問われているなかで、同時代芸術としての新たな問いを発見し、それをいかにして表現していくのか、先鋭な芸術表現とプロジェクト実践を探求する場になることを目指しています。映像表現やパフォーミングアーツなどの概念や技術を習得するだけではなく、アクチュアルな実践者たちが互いに学びあう機会を通して、表現行為をめぐって根源的な問いを立てていきます。2020年度も引き続き「ポストドキュメンタリー」をテーマにして、従来の表現形式における伝え方を再考し、新しい枠組みをメディアプロジェクトとして構想していく実践的なプログラムです。映像ドキュメンタリストの名のもとに、RAM Associationでは創造的な活動を行うことのできる人材の育成を図っていきます。

RAM Associationに参加する研修生は、自らの研究や制作をもとにリサーチ、フィールドサーヴェイ、インタヴューといった同時代の諸問題を取り扱う方法論を探究し、都市や社会、あるいはアジア太平洋地域をめぐって活動を展開していきます。今年度もさまざまな芸術実践のプロジェクトを立ち上げて、共に取り組むコレクティヴな活動によって、知見と経験を高めるプログラムを設けています。またRAM Associationは、大学といった研究機関や、アートセンター及び美術館といった文化施設、オルタナティヴ・スペースなど、国内外の芸術実践の現場と連携していくことで、学際的なプラットフォーム形成を目的にしており、研修生の活動を進展させていく機会を提供しています。

開講予定のプログラム

新型コロナウイルス感染症の対策として、オンラインを中心にプログラムを実施していきます。事態の状況によっては実施方法を段階的に見直していくこともありますが、年間を通してオンラインにて参加できるプログラムに変更しました。研修生は、下記にあげるプログラムを各々の制作・研究に合わせて選択することができ、社会人でも働きながらご自身のスケジュールに応じた参加が可能です。RAM Associationでは、さまざまな知見と経験を得ながらセルフ・プロデュース能力と表現力の向上を図っていきます。

メディア・スタディーズ

メディアや社会の特性を多角的に理解するレクチャー・シリーズ

– 参加形式：講座
– 月１回程度オンラインにて開講予定

オープン・レクチャー

テーマを開発する技術と実現プロセスに着目するオープン・レクチャー企画

– 参加形式：企画運営, オープン・レクチャー
– 隔月１回程度オンラインにて開催予定

リサーチ・ラボ

ゼミ形式での調査研究／共同調査／活動報告／理論構築

– 参加形式：ゼミナール, ラウンドテーブル, フォーラム
– 月２, ３回程度オンラインにて開催予定

フィールドサーヴェイ＆インタヴュー

芸術実践のための実地調査と対面調査

– 参加形式：プロジェクトワーク
– プロジェクトごとに年間を通じて開講予定

RAM PRACTICE

展覧会や上映会の実施を通じて、現実や事実を再構成する手法を見出し、新たな芸術実践を構想する。

– 参加形式：上映会, 展覧会, プロジェクトワーク
– プロジェクトごとに通年

募集要項

対象者　同時代の表現行為を実践的に問い直そうとするアーティスト、演出家、研究者、エンジニア、プロデューサー、編集者、プロジェクトマネージャーなど。

※ 学生応募不可。博士課程在籍の方のみ応募可。

研修期間　2020年7月～ 2021年3月末まで

定員　20名程度

教材費　50,000円

※ リサーチ・ラボや成果発表に関する実費。制作費は各自ご負担ください。

※ 教材費の支払猶予等も可能ですので、希望の方はご相談ください。

募集期間　2020年6月19日(金)～6月30日(火)

※ 資料提出締切　7月5日(日) 23:59 締切

応募手順　① 申込フォームに必要事項を記入し送信してください。

［ 6月30日(火) 23:59 締切 ］

申込フォーム｜**https://forms.gle/unK2QW38RgskEq67A**

② フォーム入力後にお送りする事務局からのメール案内に従って、以下をご提出ください。

［ 7月5日(日) 23:59 締切 ］

1）応募用紙（メールにて事務局から送付）

2）ポートフォリオ、もしくは映像資料など、活動内容の分かる資料

・ポートフォリオ：A4サイズ2枚以内、PDF形式、書式自由

・映像/音源資料：データ、およびデータについての情報を記載したPDFファイルをA4サイズ1枚程度

選考方法　事務局による書類審査により決定。結果はメールで通知します。

合否通知　2020年7月中旬

初回オリエンテーション　2020年7月25日(土) および 26日(日)［予定］

※詳細は合格者にのみ後日メールでお知らせ致します。

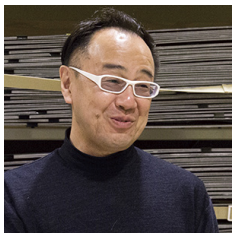
お問合せ　geidairam@gmail.com

＊応募に関する詳細は、

公式WEBサイト・2020年度研修生募集ページもご確認ください。

http://geidai-ram.jp/2020apply/

プロデューサー



桂 英史 | メディア研究・図書館情報学／東京藝術大学大学院映像研究科教授

専門はメディア理論、芸術実践論、図書館情報学。主な著作として、『インタラクティヴ・マインド』、『図書館建築の図像学』、『東京ディズニーランドの神話学』、『人間交際術　コミュニティ・デザインのための情報学入門』、『せんだいメディアテーク コンセプトブック』（共編著）、『先端芸術宣言』（共編著）などのほか、最新刊として『表現のエチカ 芸術の社会的な実践を考えるために』（青弓社）がある。

© 奥 祐司

高山 明 | 演出家／東京藝術大学大学院映像研究科教授

1969年生まれ。2002年、Port B（ポルト・ビー）を結成。既存の演劇の枠組を超え、実際の都市を使ったインスタレーション、ツアー・パフォーマンス、社会実験プロジェクトなど、現実の都市や社会に介入する活動を世界各地で展開している。近年では、美術、文学、観光、建築、教育といった異分野とのコラボレーションに活動の領域を拡げ、演劇的発想を観光や都市プロジェクト、教育事業やメディア開発などに応用する取り組みを行っている。

WEB | http://portb.net/

シニアフェロー

© Atsushi Shibuya

今福 龍太 | 文化人類学者・批評家／東京藝術大学大学院映像研究科特任教授

クレオール文化研究の第一人者。1980年代初頭からラテンアメリカ・カリブ海各地でフィールドワークに従事し、2002年からは奄美・沖縄・台湾の群島を結ぶ遊動型の野外学舎〈奄美自由大学〉を主宰する。ブラジルの大学でも教鞭をとる。著書に『ミニマ・グラシア』『群島-世界論』『ジェロニモたちの方舟』『レヴィ＝ストロース　夜と音楽』『ヘンリー・ソロー　野生の学舎』など多数。

ディレクター

和田 信太郎 | メディアディレクター／東京藝術大学大学院映像研究科助教

芸術実践の在り方をめぐって、アートプロジェクトの企画、教育プログラムの開発、映像メディアや書籍出版の制作など、プロジェクトベースに活動する。主な仕事として、展覧会シリーズ「残存のインタラクション」企画、「尺度の詩学」企画（Kanzan Gallery, 2017-18）、「ワーグナー・プロジェクト」メディアディレクター（神奈川芸術劇場KAAT, 2017）、パフォーマンスシリーズ「サークル・ナレーティング」企画（2019 -）がある。プラクティショナーコレクティヴのコ本や honkbooks主宰。

フェロー

青柳 菜摘 | アーティスト

ある虫や身近な人、植物、景観に至るまであらゆるものの成長過程を観察する上で、記録メディアや固有の媒体に捉われずにいかに表現することが可能か。リサーチやフィールドワークを重ねながら、作者である自身の見ているものがそのまま表れているように経験させる手段と、観者がその不可能性に気づくことを主題として取り組んでいる。プラクティショナーコレクティヴであるコ本や honkbooks主宰。「だつお」というアーティスト名でも活動。

WEB | https://datsuo.com/

飯岡 幸子 | 映像作家

映画美学校にて佐藤真氏に師事。監督作品に『オイディプス王／ク・ナウカ』『ヒノサト』。撮影スタッフとして参加した作品に、酒井耕・濱口竜介監督『うたうひと』、杉田協士監督『ひかりの歌』等。2017年 Kanzan galleryにて個展『永い風景』を開催。近年はリサーチャーとしての活動も。東京藝術大学大学院映像研究科修了。

カニエ・ナハ | 詩人

2010年「ユリイカの新人」としてデビュー。2016年、詩集『用意された食卓』で第21回中原中也賞、第4回エルスール財団新人賞。本の装丁や、アーティストとのコラボレーション、朗読パフォーマンスも多数。主な参加展に「MOTサテライト 2017 春」（東京都現代美術館, 2017）、「さいたま国際芸術祭2020」等。

玄 宇民 | 映像作家

1985年東京生まれ。生まれた地を離れた人々のありようと移動の記憶、マイグレーションをテーマに映像作品を制作。主な作品に『OHAMANA』（2015）、『未完の旅路への旅』（2017）など。香港の離島から始まるプロジェクト『逃島記』を2018年より継続中。ソウル独立映画祭（韓国）、Taiwan International Video Art Exhibition（台湾）などで作品上映。東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修士、同博士後期課程修了。

WEB | http://vimeo.com/woominhyun

田中 沙季 | Port都市リサーチセンター

2009年より社会実験的なプロジェクトを展開する創作ユニットPort Bに参加。リサーチ・キャスティング・プロダクションマネジメントを専門に、芸術表現と都市・人・社会の関係を軸に活動する。

WEB | https://www.instagram.com/port_urban_research_center/

Jang-Chi | アーティスト・コレクティヴ　オル太

2009年にアーティスト・コレクティヴ「オル太」を結成。祭りや習俗、都市の群衆における共同体の振る舞いについて、仮設の場や幻想の共同体を自らつくり遊びや余地のある身体表現を試みている。集団的な想起から生をとりまく環境や技術、自然と対峙するプロジェクトを展開する。

WEB | www.olta.jp

潘 逸舟 | 美術家

1987年上海生まれ東京在住。2012年、東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。主な展覧会に「アートセンターをひらく」（水戸芸術館，茨城，2019）、「Cross Domain」（金鶏湖美術館，蘇州，2018）、個展「The Drifting Thinker」（MoCA Pavilion, 上海, 2017）などがある。

WEB | hanishu.com

過去の事業実績

– RAM Associationの活動紹介映像はこちらをご覧ください。
2019年度　https://youtu.be/8ZH7ZG2MV34
2018年度　https://youtu.be/VIrdr8vbSwM

– 2014年～2016年は「リサーチ型アートプロジェクトのための人材育成事業（geidaiRAM）」を実施しました。
http://geidai-ram.jp/ram1/

2016年度　https://youtu.be/bK4NKj8Tc5o
2015年度　https://youtu.be/PYMIg5UctqQ
2014年度　https://youtu.be/Kd7XkhxxlgU

メディアプロジェクトを構想する映像ドキュメンタリスト育成事業
RAM Association: Research for Arts and Media-project

主催　　東京藝術大学大学院映像研究科
助成　　令和２年度 文化庁「大学における文化芸術推進事業」

http://geidai-ram.jp

Twitter・Instagram　@geidairam
Facebook　https://www.facebook.com/geidairam

RAM

Graphic Design: Yutaro Yamada
Press release Design: Moena Murata (RAM)